

社会を動かす、女性の力

女性の社会進出とは、社会で女性が活躍することを意味するもので、男女格差の解消や経済成長など様々な観点から社会進出は欠かせないものとなっている。総務省の「労働力調査」によると、令和5年の女性の就業者数は3051万人で、前年に比べて27万人増(0.9%増)。働く女性の数は着実に増加していることが分かる。

職場の理解が女性の可能性を広げる時代へ

「不安だらけでした。事故を起こしてはいけなとか、お客さんが安心して乗ってくれるだろうかなど、神経を減らす毎日でした」と振り返る。

「不安だらけ」

那須塩原市に女性では珍しいバスのドライバーとして活躍する女性がいる。同市埼玉のバス会社「大永交通」で働く室井香陽子さん(52)だ。



幸い職場は相馬和人社長の理解もあって女性社員の受け入れが進んでいる。「家庭的な職場です。女子寮なども作ってくれました。女

「仕事をやりたくても出れない人が多いと思う。周りの協力がないのも現状」と嘆く。

女性の社会進出は、これまで「妻は家庭を守るべき」という固定観念が大きかった。それを促すには出産後も働き続けられる環境の整備が必要不可欠とされている。

「働きやすい」

三カ月の見習い期間を過ぎて本格的な運転業務を開始。那須温泉のホテル客を送迎することから始めたが「お客さんから「あなたが運転するの」と疑われたことも。それでも「安心して乗れましたよ」「丁寧な運転だったね」などと声を掛けられるとホッとしたという。

「ベテランの域」

性に理解があって働きやすいです。職場にはもう一人の女性ドライバーが活躍している。

相馬社長は「室井さんは男社会に入ってきてくれた。厳しさの中にも優しさがあり、男性が気づかないところを女性の目で気配りをしてくれる。ありがたいことです」と話した。

室井さんは子育てが一段落した後「バスの運転をやってみよう」と一念発起。今では県外の長距離運転も任されるようになり、職場ではベテランの域に入った。

「運転は楽しい」。笑顔で話したのが印象的だった。



働く女性の健康支援広がる

女性の社会進出によって働く女性の健康面が課題として挙げられ、対策が求められている。特に、長時間労働による影響は深刻で、代表症状としては、女性特有の月経随伴症状や更年期障害など女性ホルモンにかかわる疾患や、うつ病など相対的に女性がかかりやすい。

現在、政府や医療機関、民間企業が連携し、女性がより健康的で活躍しやすい社会を目指す取り組みが進められている。

詳しくは厚生労働省の「働く女性の健康支援事業事務局」のホームページを参考にするとよい。



詳しくはこちら



ほっとミルクなのに、お酒の話をしたいと思います。昨年から美味しい日本酒に出会う機会が多く、今ささやかな楽しみとなっています。

お料理とのペアリングを楽しんだり、お気に入りのぐい呑みを探したり、ちょっと特別なおうち時間をときどき味わっているのです。今年の5月には全国新酒鑑評会で栃木県の日本酒が9つの金賞を受賞したという事で、県内の美味しい日本酒をこれからいろいろ飲み比べしてみようと思っています！

大嶋

女性に対する暴力をなくす運動

毎年11月12日～25日までの2週間「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しています。

詳しくはこちら



男女共同参画年次報告書

男女共同参画社会の推進状況や、それに関する施策についてまとめた年次報告書です。

詳しくはこちら



運転楽しい！！

作：miina 絵：Daisuke



「みいな」は市役所、公民館、図書館で配布しています。バックナンバーは市のホームページでご覧いただけます。



みいな 第90号 2025年9月発行

企画・編集：那須塩原市 市民生活部 市民協働推進課

〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108番地2

☎ 0287-62-7019

市民編集委員：室井、高根沢、佐藤、大嶋